

震災後と宗教

～東日本大震災後の支援や追悼に果たす宗教の役割～

2011年3月11日の東日本大震災発生から5年目を迎える。この出来事の記憶の風化が懸念されている現在、あらためて震災後の宗教者や宗教団体の支援活動と追悼儀礼、被災者自身による追悼行為を振り返ることで、震災後の宗教の役割について再考してみたい。

報告

「滋賀教区浄土宗青年会の 近江米一升運動による被災地支援の取り組み」

曾田 俊弘 / 浄土宗総合研究所嘱託研究員

「京都での避難者支援活動」

金田 伊代 / 「神主さんと京の社を巡ろうの会」代表

「旧被災地における記憶の継承と宗教の役割」

三木 英 / 大阪国際大学教授

コメント

西出 勇志 / 共同通信長崎支局長

司会

大谷 栄一 / 佛教大学准教授

日時

2016年3月13日(日)
13:00～17:00 (受付12:30～)

参加費無料
申込み不要

会場

**佛教大学紫野キャンパス
常照ホール (成徳常照館5階)**

京都市北区紫野北花ノ坊町96
京都市バス：千本北大路下車北に徒歩3分、佛教大学前下車すぐ
※必ず公共交通機関をご利用ください。